

研究室紹介

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部 花・野菜技術センター 研究部 生産技術グループ

道総研花・野菜技術センターは、北海道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たすことを目的に、「北海道立花・野菜技術センター」として1996年（平成8年）に設立されました。当センターは、道立農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術の改善および生産物の流通技術等に関する試験研究を実施するとともに、「開かれた試験場」として、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、花き・野菜の生産者育成を目的とした総合技術研修などの各種研修を実施しています。2010年4月の道立試験研究機関の法人化に伴い、地方独立行政法人北海道総合研究機構農業研究本部花・野菜技術センターに改組され現在に至っています。職員数は事務職員を含め25名（ほかに農業改良普及指導員2名が常駐）、試験圃場を含めた敷地面積は50ha、12棟の温室、40棟ほどのビニールハウスに加えて、貯蔵試験を行う保鮮棟など施設や研修寮を備えています。

生産技術グループは5名で、そのうちの2名が病害虫関係の業務を担当しています。

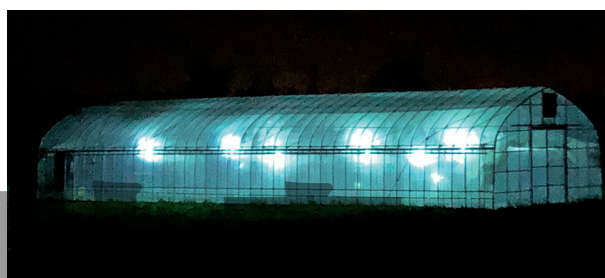
以下に、現在実施中の主な病害虫の課題を紹介します。

紫外光（UV-B）を利用したデルフィニウムうどんこ病の防除法の確立

デルフィニウムは北海道における主要な花き品目の一つですが、そのうどんこ病は最重要病害となっています。生産現場では栽培期間に毎週の防除が行われていますが、それでも病勢を抑えられない場合があります。また、北海道とはいえ夏季の高温時のハウス内の防除作業は生産者の負担となっており、より安定的かつ省力的な防除方法が望まれていました。いちごのうどんこ病などで導入されている紫外光（UV-B）について、これを照射した植物に病害に対して誘導抵抗性が発現する仕組みを利用し、栽培期間を通じて紫外光照射を行うことで、うどんこ病の防除回数を削減する耕種的な防除技術の開



花・野菜技術センターの庁舎



紫外光（UV-B）照射中のデルフィニウム栽培ハウス（原図 藤根）

発に取り組んでいます。

果実品質に優れ多収な春どりいちご品種の開発

当センターではいちごの品種開発を行ってきており、直近では春どりいちごとしては大粒の品種‘ゆきララ’を送り出しています。現在は、‘ゆきララ’並の果実品質を有する多収品種の開発を目標に取り組んでおり、その有望系統について、疫病と萎黄病の抵抗性検定を、ガラス温室内で接種により実施しています。

そのほかには、当場で実施している総合技術研修や各種セミナーについて、病害虫にかかわる講習および演習の授業を担当しています。また、個別の課題解決や各種技術の習得を目的とする専門技術研修の受け入れも行っていきます。

さらに、発生予察事業にかかわる定点調査や各種作物の新農薬実用化試験、各地の農業改良普及センター等からの病害虫診断依頼にも対応しており、生産現場からあげられた多くの要望に対して技術支援を行っています。

（主査（病虫） 佐々木 純）